

山と博物館

第33巻 第5号

1988年5月25日

大町山岳博物館



ハクセキレイ 白馬駅前 (撮影'86・5・21 長沢修介)

都会派の鳥

一九八六年五月二十一日の白馬駅前。観光客も比較的不い時期ではあるが、車やバスの往来ははげしく、人通りも絶えない。

早朝から歩いた訪鳥会の下調べも終わり、新緑の山と残雪の白馬三山を眺めながら一休みしていると、一羽の白黒の鳥が洋装店の入口に並べられた洋服の上に止まって、しきりに上に向かって飛び上がり、横に飛んでガラスに当たっているのに気付いた。

始めは何の仕草か分からず、遠くから眺めていた。それがハクセキレイの姿で、鏡に写る己の姿に興奮し、自己の縄張りを主張して、鏡に向かって攻撃をかけているのだと判明するまでには、5m程に近寄って見るまでの時間がかかった。

このハクセキレイ、人や車の往来は全く気にとめず、2m位の開口に並べられた洋服掛けに止まり、天井の境に写る我が姿をめがけては、飛び上がって攻撃をかけ、また下りて止まって上を見て、再度飛び上がって攻撃をする行動に夢中で、その前の歩道を人が通ろうが、車が通ろうが全然意に介する様子もなかった。ただ一度、店から客が出て来た時、すぐ横を通ろうとしたら、店の軒先に舞い上がっただけで、あとは休むことなく、ジュリチーとけんかの時の声を出し、この動作をくり返していた。

近年、都市を生活の場に進出し始めた数種の鳥が話題を呼んでいる。このハクセキレイもこのグループの一つで、一九八六年一月十八日の朝日新聞夕刊に、「夜の盛り場に白い鳥軍団」という見出しで、盛岡市のネオン街に夕暮と共に集まってきて、街路樹を囀らし、数千羽が枝に数珠つなぎりに止まり、雪が積もったようだと報じている。また、東京の都心や、水戸市内など、都市のビルや繁華街の街路樹等で集団囀をとることが知られている。

列島都市化の中で、ある種は減少の一路をたどったが、都市の中に進出し、都会化現象を起こしている鳥もある。それ等の仲間にとっては、一面都市も全く棲みにくい所ではなく、外敵面、食糧面を考えれば自然界より安全で、安易に生活できる場所でもある。

ペンションが立ち並び、夏や冬は都会の盛り場よりもにぎわう白馬には、鳥達も都会派が棲むようになったのかも知れない。

(長沢修介)

ハクセキレイの 大北地方繁殖について

長 沢 修 介

白馬村神城及び大町市街地の二例

近年、都市化の進むなかで、その繁殖地を拡大しつつある鳥がある。その一例がハクセキレイで、元来本州へは冬鳥として飛来していたものが、北海道から始まって、東北地方から本州へ猛烈な勢いで繁殖圏を広げ、南下しつつある。海岸線から河川を経て内陸部に入るようで、大町市では一九八三年に記録があるが、今回私の見た二例について、野帳よりその記録を拾ってみた。

一例の神城のものは、このハクセキレイの研究に詳しい神奈川県立博物館の中村一恵氏が見つけられ、知らせて下さったもので、以後この鳥についての情報を御指導頂いている。

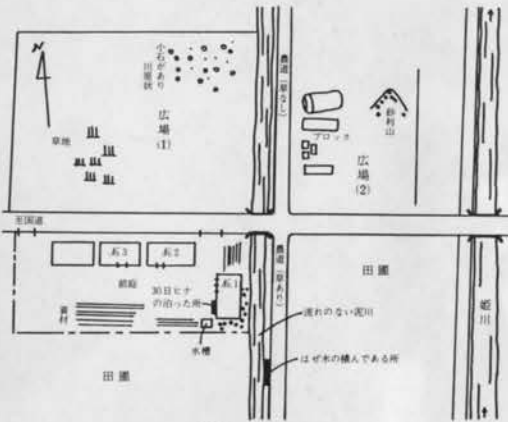
この二例の他に、表紙のもの一九八六年五月、一九八六年七月、神城のすっかり成長した雛3羽と、一九八六年9月初、大町市内の♀♀親につれられた5羽の幼鳥と、しばしば見かけるようになった。

一、白馬村神城の繁殖

一九八五年7月27日

ここは以前は湿原であった所を埋立てし、建設資材置場として使われており、営業した建物の南側、東側は田圃である。裏は道路一つ隔てて広い埋立地であって、東に約50m行けば姫川、西に30m位で国道一四八号線に出る。

裏の埋立てた広い広場は、周囲が水抜き溝で囲まれ、広大な河口の感じがする。



神城の営業地

一部埋立していない場所や姫川岸にはヨシが繁り、オオヨシキリが盛んにさえずっている。裏の広場では数年前から、コチドリが二番繁殖をしているし、その東側の資材置場ではセグロセキレイが繁殖した。また、埋立地周辺の小さなヨシやヨモギは、大北地方でただ一ヶ所コヨシキリの繁殖する所でもある。

PM 3時30分 現地に着く。車から下車すると、すぐに電線に止まって、エサを一杯くわえて警戒する♀の姿を見る。

営業したのは、62の資材倉庫で、セメントの形枠に使う鉄板を積み重ねて収納してある倉庫であった。中で作業員の方が鉄板を磨いていたので、事情を話し、巣の位置、今までの状況を聞く。



巣に向かう親(神城'85・7・27)

穴に行きしきりと上を向くがなかなか入らず。中には桝板の鉄板が積んであるが、鳥の出入りに支障のないよう、壁との間を少しあけてくれているとのことであった。

♀はしばらく思索していたが、舞い上がるように中に飛び込み、少したつと、入口には止まらずに一直線に舞い下りるように飛び出して来た。♀が二回目に来て入ったあと、♀が口いっぱいエサを持って前庭に下り、入口の穴に向かうと、後を追ってセグロセキレイの巣立ちした幼鳥が3羽前庭に下りた。いずれもエサはくわえておらず、鳴き声は、「ジュン、ジュン」のセグロセキレイの声である。しかも驚いたことに♀が穴から入って行くこと、そのあとを追って2羽が入って行った。この幼鳥2羽と♀は、入ったこの穴からは出て来なかった。この様子は、何と理解してよいか不明である。出口については、あとで調べてみる。屋根の下に使っているL字の鉄骨の間から外に出ることが判明した。この空間は、屋根の下に小さな隙間のためには、止まる所がないが、出口としては飛び下りる形となるので出口として使用している様子であった。

巣は倉庫入口のシャッター上の戸袋上で、日中でも暗い場所であり、昼間は入口のシャッターを開けてあるので、ここから出入りして育雛をしているとのこと。中で人が仕事をしていたり、入口からサツと舞い上がってエサを与えているとのことであった。小屋の入口から7m程の所に資材の材木が積んであるので、その陰に隠れ、しばらく様子を見るが、倉庫の軒先まで飛来し警戒して、巣には入らない。約30分程ねばってみるが、♀がエサを持ってしきりと警戒するだけ。これ以上ではより警戒心をつのらせる結果となり、中の雛のことも心配であるので、ひとまず遠ざかることにする。

PM 5時、作業員の方が帰るといので、この倉庫前に車を入れてもらって観察する。車に入るとすぐに♀が入口シャッター前に舞い下りる。シャッターが下りているのでしきりと入口を探す。まもなく入口より5m程はなれた所のブロック二枚をぬいた風抜きの

このあと幼鳥は二度出現したが、入口まで中には入らなかった。♀♀共に5分に一回位の割合で頻りにエサを運んで来るが、♀はすぐ穴に入るのに、♀はなかなか入らなかった。PM 7時15分まで観察。

7月30日 PM 3時30分

作業小屋にあいさつすると、今日は朝から中に入らないし、雛の声も聞かない。昨日までは雛の声がしていたが巣立ったと思うとの話。♀は61倉庫の屋根及び裏の電線でききに警戒しているが、巣の方向には来る様子



巣立ちした日の夕方(神城'85・7・30)



巣立ち一日で水死したヒナ(神城'85・7・31)

巢は地上2.5mで、鉄骨の組み合わせ部分に当たり、幅10cm、奥行35cm、高さ25cmの箱形の空洞の奥に作られてあった。親のエサを運ぶ改めて思った。

5月24日 AM 5時
 巢が巣立った。1羽は巢から50m程の田の

がない。作業員の方が梯子を持って来て「巢をみてみなし」と言うので登って見る。巢は入口シャッター戸袋の上の角にあり、雛は1羽もいなかった。暗いので巣材まで確認できなかったが、セグロセキレイやキセキレイに比べ、ずっと平べったい巢であった。

今朝の巣立ちならまだこの附近にいるはずと思い、作業員が帰ると前日のように車を前庭に入れ観察する。早が1倉庫の屋根から東側にエサを持って下りるのを目撃、そちらを調べる。1倉庫裏は幅約1.5mの泥川となっており、川沿いに石を積み、建物と川との間1m位の幅に、全体に黒い色をした角のない海辺の石のような玉砂利を敷いてあった。

この玉砂利の中で何か動いたな、と感じ双眼鏡で見ると、1羽の雛がいた。全体に黒っぽい色をしていて玉砂利と区別のつかない見事な保護色である。最初は5mの距離まで動かなかったが、あとはこちらの動きにつれ、一定の距離を保ってあちこち動き回ったが、歩かただけで、まだ飛べる状態ではなかった。早親の誘いで前庭の方に行き、1倉庫の前の資材の上によじ登る。早親は、エサを与えて

は1倉庫の屋根裏に雛を誘うが、雛はガラス戸を30cmも舞い上がれない。ヒナはあきらかに壁との間に身を入れ丸くなる。PM 7時40分。

7月31日 PM 3時30分
 昨日の雛はどうなったか見に行く。あの状態なら必ずまだ附近にいるはずと、さんざん探すが見当たらない。早親の姿もなく、附近を歩いても警戒する様子もない。夕闇の迫る頃、昨夜の雛が泊った場所に行ってみると、小さな糞が二つある。昨夜はここに泊ったのにどうしたものかと横に目をそらすと、横の水槽の中に、昨日の雛が頭を水の中に入れ、羽を広げたまま浮いているではないか。

水槽は幅50cm、長さ150cm、深さ70cmの鉄製で、半分程水が入っていた。今朝動き出した雛が、ちよつと飛んだ時に、誤って落ち、飛び上がることもできず水死してしまったのだ。なんとその後味の悪い幕切れとなってしまった。

このハクセキレイの繁殖は、一つの雛しか確認できなかったし、またこの鳥の営巣、育雛の観察が初めてであったので疑問点のみを残す結果となってしまった。

二、大町市内での繁殖
 一九八六年五月16日
 夕方、家内に白いセキレイが営巣していると言われ、出かけてみる。

その場所は県道と市道の交差点で、前に小さな釣堀があり、民家や車庫などがある市街地であって、車の往来のはげしい所であった。その車の往来がはげしい中をぬうようにして、アスファルト道路を、エサを口一杯にくわえたハクセキレイが歩いているではないか。巢は県道に面した人家の玄関兼車庫の鉄骨の隙間に作られてあった。家の人に尋ねると、三年前から毎年営巣することであった。こんな近くに、三年も前から営巣してたとはいふぞ知らなかった自分に腹立たしく思うと同時に、身近な所の観察をもっと行わねばと改めて思った。

5月18日 AM 4時
 早朝は車や人が通らないので思うように観察できる。早共しきりにエサを運んで来るが、早の方が回数が多いのは前と同じ。親鳥が遠ざかった時に、梯子で巢をのぞいて見る。前例の巣と同じように、平たい巢で、巣立ち近いヒナが4羽いた。

5月24日 AM 5時
 巢が巣立った。1羽は巢から50m程の田の

状況から見ると、巣立ち近いものと推察した。前年の神城の例で、この鳥は車をあまり警戒しないことが分かっていたので、巢の前に車を置き、車の中から観察する。

早3〜4回に対し、早が一回程度の割合で早の方が給餌回数が多いのと、早はすぐに巢に入らないのは、前例と同じであった。

エサは附近の側溝の中をあさったり、500m程離れた田圃から探して来るようで、5分〜7分に一回程度(PM 6時〜PM 6時30分)であった。

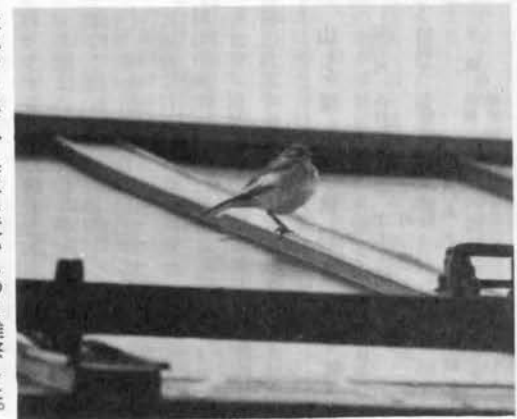
状況から見ると、巣立ち近いものと推察した。前年の神城の例で、この鳥は車をあまり警戒しないことが分かっていたので、巢の前に車を置き、車の中から観察する。

早3〜4回に対し、早が一回程度の割合で早の方が給餌回数が多いのと、早はすぐに巢に入らないのは、前例と同じであった。

エサは附近の側溝の中をあさったり、500m程離れた田圃から探して来るようで、5分〜7分に一回程度(PM 6時〜PM 6時30分)であった。



大町の営巣地(矢印)



巣立ちした日のヒナ(大町'86・5・24)



口いっぱいのエサを運ぶメス親(大町'86・6・27)

中、一つは巢から道路一つ隔てた屋根の上、♀は巢へも出入しているの、巢の中に残りのものがいる様子。一番遠くにいる雛へ♂が給餌していた。この雛は50m位は飛べる様で、人家の屋根から田圃の方へ♂について飛んで行った。無事巣立を迎えた。

6月26日

5月24日に巣立ちした場所の前を通り、ちよつと見ると、同じ親が又エサを口いっぱいにくわえている。♀の飛んだ先を見ると、5月の時の反対側の同じ場所に入っていた。前の時は入口に向かって右側の角、今度は左側の角である。エサの運び方から見ると、雛は大きい様子。しばらく観察していると、雛がやって来て、続いて成鳥に近い幼鳥が2羽巢の下に降り、その後続いて巣に入っていた。二番巢である。巣立ちして一ヶ月目にこんな成長し、しかも子育てを親といっしょにしていると。一番巢の子が二番巢の子育てをヘルパーする例は初めて見た。前年神城で



親(左)と子(大町'86・7・24)

見た光景はこれと同じようなものであったがその時は理解できなかった。これでやっと理解できた。神城で見た巣立ちとは、7月30日であったから営巣が遅いと思っていたが、あれも二番であったろう。今思い返してみると、巣立ちした雛が水死した日、♀親の附近に成鳥に近い2羽の幼鳥が、さかんにハエを空中で捕食していたの思い出す。

この鳥は、抱卵、育雛の日数計算をすると、一番巢が巣立つとすぐに二番巢の営巣にかかり、抱卵中は、一番巢の雛はと行動を共にすることが多いのではないかと。それで二番巢のヘルパー時は、必ず♂といっしょに出現するのだと考えられる。ともあれ興味ある問題だが、まだ多くの例を観察しないと解釈できないことでもある。

※写真はすべて筆者撮影
(山岳博物館嘱託員)

博物館だより

バックナンバーのお知らせ(4)

次の巻号のバックナンバーがあります。内容は主なものの紹介ですが、ご了承ください。

- 第15巻第1号(昭和45年1月) 山の犬―信州伊那地方の事例―向山雅重
- 第15巻第4号(昭和45年4月) スミレ旅日記―雑種を追って―浜 栄助
- 第15巻第8号(昭和45年8月) シナノサイコ 高橋秀男
- 第15巻第9号(昭和45年9月) 北葛沢廻行記録 山口一也
- 第16巻第10号(昭和46年10月) ライチヨウを育てる(その二) 篠崎健一郎
- 第17巻第5号(昭和47年5月) 居谷里湿原のハナカエデ 海川庄一
- 第17巻第7号(昭和47年7月) 山・道・みどり 平林国男
- 第17巻第8号(昭和47年8月) 平林武夫さんを偲んで 山崎林治
- 第17巻第10号(昭和47年10月) 安曇野のセミ 清水悟郎
- 第17巻第11号(昭和47年11月) 鎮守の森 倉田 稔
- 第17巻第12号(昭和47年12月) 仁科神明宮の神楽 平林国男
- 第18巻第1号(昭和48年1月) 山のガイドたち 横沢幸男
- 第18巻第2号(昭和48年2月) 山道の昆虫(1) 高須 茂
- 第18巻第3号(昭和48年3月) 山道の昆虫(2) 奥水太伸
- 第18巻第4号(昭和48年4月) 登山用具の変遷(1) 西岡一雄
- 第18巻第5号(昭和48年5月) 登山用具の変遷(2) 奥水太伸
- 第18巻第6号(昭和48年6月) 安曇地域の地質と化石 西岡一雄
- 第18巻第7号(昭和48年7月) 田中邦雄

- 高山植物の系統 横内 齋
- 第18巻第2号(昭和48年2月) 高山蝶 田淵行男
- 第18巻第3号(昭和48年3月) (安曇地域の地質と化石) 田中邦雄
- 第18巻第5号(昭和48年5月) スズメの行動範囲について 佐野昌男
- 第18巻第11号(昭和48年11月) ふるさとの野仏 田中欣一
- 第18巻第12号(昭和48年12月) ネズミの話(1) 野ねずみ 金森正臣
- 第20巻第10号(昭和50年10月) 人口爆発時代と動物の社会 山岸 哲
- 樹木と害虫(1) 小沢孝弘
- 秋と私 清沢由之
- 第20巻第12号(昭和50年12月) カモシカの捕獲について 宮尾嶽雄
- 造林者の立場からのカモシカの捕獲について 中山政雄

バックナンバーの請求方法

右記にご希望のものがありましたら、一部100円でおわけします。巻号と部数を明記のうえ、現金書留か口座振替で大町山岳博物館宛ご送金ください。着信次第お送りします。(送料当方負担)品切れの折は最新号でお知らせします。振替の場合、口座番号は長野四一三二九三です。

(次回につづく)

山と博物館 第33巻 第5号

発行所 長野県大町市 TEL 220-2111
印刷所 大町 山岳博物館
定価 年額 一、二〇〇円(送料共)印刷部
郵便振替口座番号(長野四一三二九三)